

「レッドタートル ある島の物語」 ★★★

2016 (平成28) 年9月6日鑑賞<東宝試写室>

監督・脚本・原作：マイケル・デュドク・ドゥ・ヴィット

脚本：パスカル・フェラン

アーティスティック・プロデューサー：高畑勲

製作：スタジオジブリ、ワイルドバンチ

2016年・日本、フランス、ベルギー合作映画・81分

配給/東宝

◆オランダ生まれのマイケル・デュドク・ドゥ・ヴィット監督は『岸边のふたり』（00年）という、たった8分間の短編アニメが注目されて有名になっただけ。その結果「スタジオジブリ」との提携が実現し、高畑勲監督の協力を得て、10年近くかけて本作が完成したらしい。もともとアニメがあまり好きでない私にはあまり興味がなかったが、時間的余裕があったので、勉強のために観ておこうと思って試写室へ。

映像は美しくセリフ無しの詩情豊かな81分間の長編アニメは、さすが第69回カンヌ国際映画祭の「ある視点」部門特別賞を受賞しただけのことにはあるが、残念ながら私にはそれだけのことで、それ以上の感動はない。さて、アニメ好きのあなたは？

◆映画冒頭、大嵐に飲み込まれるようにのたうち回る一人の男の姿が登場する。職人気質のマイケル・デュドク・ドゥ・ヴィット監督は、本来一枚一枚のアニメの絵を自分で描いてきたようなアニメ作家だそうだが、なるほど一つ一つのシーンにはそんなこだわりが感じられる。もっとも、打ち上げられたある島の浜辺で目を覚まし、島を探検する男の風貌はもちろん日本人ではないから、なんとなく親しみが薄い。また、時間が経てば着ていた上着もなくなり髭ぼうぼうになるのは仕方ないが、その顔になかなか馴染めない上、その顔にあまり知性が感じられないのが玉にキズ・・・？

スクリーン上には島から脱出するため筏を作る作業が映し出されるが、「ロビンソン・クルーソー状態」になれば、何よりもまず水と食料を確保し、眠るための小屋を建てるのが先なのでは・・・？

◆本作のタイトルになっている「レッドタートル」とは一体ナニ？これを直訳すれば、「赤い亀」だ。そして、本作には砂浜から海に向かって歩いていく小さなウミガメや海中を泳ぎ回る大きなウミガメが登場する。しかし、本作におけるその意味は？

絵画の世界でも、人物画や静物画はわかりやすいし、ピカソの『ゲルニカ』も「物語性」が明確に理解できる。しかし、いわゆる抽象画は画家がその絵の中で何を訴えたいのか理解するのが難しい。当然その解釈は鑑賞者1人1人の自由でいいわけだが、そうするとよけいに難しく感じられることもある。

しかし、アニメ映画の抽象画ともいえるべき本作で、マイケル・デュドク・ドゥ・ヴィットが主張したかったのは一体ナニ？「レッドタートル」というタイトルやスクリーン上に何度も登場する赤いウミガメの姿にその主張が込められていることは明白だが、それをあなたはどうか解釈・・・？

◆男が何度も試みた、島からの筏での脱出は、もともとあてのない無謀な計画だが、それ以上に本作で目を惹くのは、何者かが海中から筏に当たってくるため、筏が壊されてしまうこと。これはあたかも、全盲のヨットマン岩本光弘氏と2人で太平洋横断を試みた辛坊治郎アナウンサーのヨットが、クジラに衝突したため(?)沈没したようなものだが、さてそのココロは・・・？

本作は81分と短いけどセリフがないこともあり、中盤で私は不覚にも少し居眠りしてしまった。そのため、中盤から男のパートナーとして女性の姿がスクリーン上に登場し、更に小さい男の子まで登場したことの意味がわからず、アレ・・・。鑑賞後、友人に聞いたところでは、死にかけたウミガメをこの男が看病していたところ、突然女性が現れたらしい。なるほど、なるほど・・・。しかし、この女性は一体ナニ？ひょっとして、これこそがレッドタートル・・・？

◆子供が生まれると、その子供が成長していくのは当然。ロビンソン・クルーソーは、捕虜の一人であったフライデーを従僕に従えて孤島での生活を何十年も続けたが、本作でもあの小さかった男の子が成人していく中、この孤島はあっと驚く事態になっていくのでそれに注目！同時に、今や立派な青年に成長したこの男の子の、そこでの活躍ぶりにも注目！

ロビンソン・クルーソーの物語では、孤島に漂流した男が孤独の中でいかにたくましく生きていくかという、生存のための知恵と勇気が興味深かったが、本作では孤島に流れ着いた主人公の男が島の中でどのように生きていくのかという生活感を見せてくれない。水以外の食料はパパイヤの実(?)だけだし眠るところも砂浜だから、あくまでこの男は自然の中で自然と調和して生きているらしい。ロビンソン・クルーソーがあらん限りの知恵と努力で自然を征服しながら孤島の中で生きていったのとは正反対だ。しかし、どんな生き方をしようと、人間は歳をとっていくもの。島から脱出できないまま、長い間孤島の中で自然と調和した生き方を続けた男の最後は・・・？一方では、なるほど、なるほどと思いつつ、他方では少し消化不良の感も・・・。